

有限会社 H.I.プランニング 243-0025 厚木市上落合 6 9 7 - 2 Tel/Fax046-230-0890

代表 岩崎 仁志

E-mail : h-iwasaki@tbz.t-com.ne.jp

H. I. インフォメーション 2021年10月号

日を追うごとに秋は深まり、目にする風景にも様々な変化があらわれて参りました。桜やイチョウなど、身近な樹々の葉も少しずつ色づきながら、落葉を始めています。この世界で何が起ころうと、時は歩みを止めてくれないことを、自然の営みはいつも教えてくれます。また、限られた時間を大切に使わねばならないことにも、改めて気付かされる思いです。人手不足を補う対策がなかなか進まない物流業界でも、あと2年余りで時間外労働規制の適用が始まります。2024年4月からドライバーの残業時間は960時間以内と制限され、違反企業には6か月以下の懲役も。まだ2年以上も先のこと、という構え方は非常に危険です。荷主との協力体制が整わなければ、2024年問題は解決できません。市場規模2兆4兆円(2020年度)とされる国内の物流関連市場。このうちトラック運送の市場は約6割(1兆4兆4,500億円)を占めています。さらに国内貨物総輸送量は年間47億トンで、トラック輸送がその9割を担っていることを思えば、これからの物流は、ドライバーの働き方に合わせて変えていかなければ成り立たなくなることも明白でしょう。この先も矢のごとく過ぎていく時間一、1日1日を無駄にせず、必要な準備を進めて参りたいものです。

エコドライブを企業戦略に

原油の高騰が止まりません。前年度の決算を黒字で乗り切った企業でも、ここに来て好調な経営に影が差し始めたところも少なくありません。すでに昨年から今年にかけて軽油は1ℓ当たり40円近く値上がっており、場合によっては仕事をすればする程、赤字になる、というケースもさらに増えてきそうな状況です。例えば1日100km走行している4t車両が平均4.5km/ℓで走行しているとする、1日当たり、約22ℓの燃料を使用することになります。25日稼働だと月間で550ℓ、40円の値上げだとしても月間22,000円の負担増、年間だと264,000円増にもなります。車両を50台保有しているとする、1千320万円の負担増となり、貴重な収益をじわじわ減少させていくことに…。このような時こそ、日頃から唱えているエコドライブの実践が力を発揮します。すでに皆様も朝礼や社内運動などでCO2削減や省エネへの取組み等進めてこられたことでしょう。まさに今、燃料費高騰対策の最強手段として、エコドライブの強力推進を社内で再発動させていただきたいと願います。エコドライブの産物は燃料の節約だけではありません。安全運転にもつながり、事故撲滅にも一役かってくれます。会社、社員、顧客にとって良い結果しか生まないエコドライブの10ポイントをもう一度ここで取り上げてみます。①ふんわりアクセル「eスタート」＝「やさしい発進を心がけましょう」。普通の発進より少し緩やかに発進する(最初の5秒で時速20キロが目安です)だけで11%程度燃費が改善します。やさしいアクセル操作は安全運転にもつながります。時間にも余裕を持って、ゆったりした気分で運転しましょう。②加減速の少ない運転＝「まず車間距離は余裕をもって、交通状況に応じた安全な低速走行に努めましょう」。車間距離を詰めたり、速度にムラのある走り方をすると、加減速の機会も多くなり、その分市街地で2%程度、郊外で6%程度燃費が悪化(前後の一般車両に圧迫感や恐怖感を与えることにもなります)。同じ速度であれば、高めのギアで走行の方が燃費がよくなります。交通の状況に応じ、できるだけ速度変化の少ない安全な運転をしましょう。③早めのアクセルオフ＝「エンジンプレーキを積極的に使いましょう」。エンジンプレーキを使うと、燃料の供給が停止されるので、2%程度燃費が改善されます。停止位置が分かったら、早めにアクセルから足を離して、エンジンプレーキで減速しましょう。また減速したり、坂道を下る時にはエンジンプレーキを活用しましょう。④エアコンの使用を控えめに＝「車内冷暖房は控えめに」。特に夏場、設定温度を下げすぎないことがポイントです。外気温25℃の

時に、エアコンを使用すると、12%程度燃費が悪化します。⑤アイドリングストップ＝「無用なアイドリングをやめましょう」。10分間のアイドリング（ニュートラルレンジ、エアコンOFFの場合）で、130cc程度の燃料を浪費します。待ち合わせや荷物の積み下ろしのための駐停車の際には必ずアイドリングを止めましょう。⑥暖機運転は適切に＝「エンジンをかけたらずぐに出発しましょう」。現在販売されているガソリン乗用車においては暖機不要です。寒冷地など特別な状況を除き、走りながら暖めるウォームアップ走行で充分。暖機することにより走行時の燃費は改善しますが、5分間暖機すると160cc程度の燃料を浪費しますので、全体の燃料消費量は増加します。⑦道路交通情報の活用＝「出かける前に必ず走行計画・準備をして、渋滞や道路障害等の情報をチェックしましょう」。1時間のドライブで、道に迷って10分余計に走行すると14%程度の燃費悪化に相当。地図やカーナビ等を利用して、行き先及び走行ルートをあらかじめ計画・準備をしましょう。道路交通情報をチェックして渋滞を避ければ燃料と時間の節約になります。⑧タイヤの空気圧をこまめにチェック＝「タイヤの空気圧を適正に保つなど、確実は点検・整備を実施しましょう」。タイヤの空気圧が適正値より50kPa(0.5kg/c㎡)不足した場合、市街地で2%程度、郊外で4%程度、それぞれ燃費が悪化します。また、安全運転のためにも定期的な点検は必要。⑨不要な荷物は積まずに走行＝「不要な荷物を積まないようにしましょう」。100kgの不要な荷物を載せて走ると、3%程度燃費が悪化します。車の燃費は荷物の重さに敏感です。運ぶ必要のない荷物は、車から下ろしましょう。⑩駐車場所に注意＝「渋滞などをまねくことから違法な駐車はやめましょう」。交通の妨げになる場所での駐車は交通渋滞をもたらす余分な排出ガスを出させる原因となります。平均車速が時速40kmから時速20kmに落ちると、31%程度の燃費悪化に相当すると言われています。

これらのポイントはしっかり実践することで必ず大きな効果をもたらします。社内におけるエコドライブ運動の進め方は、①経営トップによる方針決定、②社内体制作り、③具体的な推進目標の設定、④エコドライブの推進実施、⑤燃料実績の把握と分析、⑥評価・表彰制度の確立、という手順で進めて参りましょう。全社員が納得して参加することがとても重要で、成果も早く表れます。忙しさも加速していくこれからの時期、安全と安心の両方を叶えてくれるエコドライブは大きな支えとなってくれるはず。大切な利益を守り抜くためにもエコドライブの推進をさらに推し進め、このピンチを次のチャンスに変えていきたいものですね。

日本パレットレンタル、業界異なる荷主の共同輸送マッチング稼働

日本パレットレンタル（JPR、東京都千代田区）は10月21日、共同輸送マッチングサービス「TranOpt」（トランオプト）の提供を始めたことを発表しました。業界の異なる荷主に共同輸送の機会を創出することによって、物流業界全体の課題である実車率や積載率の向上、CO2排出量の削減にも貢献する、としています。これは日本パレットレンタルと群馬大学が開発したもので、多数の輸送ルートが登録されたデータベースのなかから、効率が高い共同輸送の組み合わせを瞬時に列挙して提案する、共同輸送マッチング技術となっています。この技術は、数学分野で知られる「距離の公理」など背後に潜む不等式を上手く活用し、正確さを犠牲にすることなく探索する範囲を絞り込むもの。1台のトラックで3本の輸送を逐次的に処理する三角輸送や、3本の輸送を混載して同時に運ぶ混載輸送に対応。効率性が高く、協力することでメリットが得られる輸送ルートの組み合わせを瞬時に提示することが可能となりました。TranOptは、AI（人工知能）で業界の異なる荷主企業同士をマッチングするサービス。TranOptは、多数の企業の輸送経路をデータベース化し、AIによって業界を跨いだ荷主企業同士をマッチングするもの。利用者は、TranOptに自社のルート情報や、積荷や詳細な条件を登録。TranOptのAIは希望条件を考慮したマッチングを行い、複数のマッチング候補を利用者に提示する仕組みです。利用者は、共同輸送を行いたい相手にTranOpt上で通知することで、相互に調整を図りながら共同輸送に進むことができます。物流業界は、トラックドライバーの深刻な不足への対策や、環境負荷の軽減などの課題に

直面していますが、日本のトラックの積載効率は40%未満。特に長距離輸送における復路の空車輸送の改善は、こうした課題の解決につながる施策として期待されています。

積載効率改善策の一つが、複数企業での共同輸送ですが、荷主企業同士の共同輸送の多くは同業種での取り組みが中心になっています。同業界同士での共同輸送は、物流形態や季節波動が似通っていることが多くメリットを出せる経路を見出すことが難しい傾向にあります。一方で、異業種との日常的な交流は少ないため、対話の相手を見つけることが難しいことから、共同輸送を自動で行えるマッチングサービスが求められていました。ことし8月までに実施した無償モニター利用期間において、TranOptのAIがマッチングした輸送経路の平均実車率は93%という高い値を示しており、利用者からは期待の声も上がっています。今後の動きが注目されるところです。

SBSグループ、全ラストワンマイルの車両EV化を表明

SBSホールディングス（HD）は10月12日、グループでラストワンマイル輸送を担う全車両をEV（電気自動車）トラック化する方針を明らかにしました。SBSグループがEC（電子商取引）事業向けラストワンマイル輸送車両として稼働する車両を対象に、今後5年間で全てEV化するとともに、協力会社を含めた1万台のトラックについても2030年度をめどにEVへの置き換えを働きかける考えです。今回決定したEVトラック導入は、京都大学系EV開発スタートアップのフォロフライ（京都市左京区）が輸入・販売を手がけるEVトラックが国内で初めて、ファブレス生産（海外生産）による宅配用EVのナンバーを取得したことがきっかけとなりました。

SBSグループでは、Eコマース向けラストワンマイルの車両として約2,000台が稼働しており、今後5年程度でこれらの車両をEVに置き換え、さらに協力会社の車両も含めて中期的に1万台程度のEVを導入する計画です。SBSグループ代表の鎌田正彦社長は「今回、フォロフライ社からEVの供給が得られることは、SBSグループが脱炭素の取り組みを進めて地球環境に貢献していくうえで、大きな前進。当社はフォロフライ社に出資し同社の今後の成長を支援しながら、次世代型車両の導入を迅速に進めていく」とコメントしています。

日通、CO2s算出サービス開始、公的手続きにも対応

日本通運は10月14日、国内の最適輸送モードを一括検索できる「ワンストップ・ナビ」の提供を開始します。輸送モードごとのCO2排出量を横断的に比較・算出することが可能で、算出されたデータは行政への公的な手続きにも対応していることから、サプライチェーン上のCO2排出量を正確に把握したい荷主企業に適したサービスとなりそうです。

ワンストップ・ナビは、PCやスマートフォン、タブレット端末から発着地・個数・重量を入力することで、時間や場所を問わずに輸送モードを瞬時に比較・検討できます。日通は総合物流事業者である強みを生かし、運賃やリードタイム、CO2排出量といった幅広い視点で自社のネットワーク輸送網を駆使した「最適輸送モード」を提案できる体制を整える考えです。

特に、CO2排出量は輸送ごとに異なる集配距離を地図データと連携して距離を計算し、正確なCO2排出量を算出。物流業界で初めて第三者機関のSGSジャパンによる検証を受けています。日通では、ワンストップ・ナビを顧客・案件ごとにカスタマイズしたツール「エコトランス・ナビ」の準備にも着手しており、顧客の輸送実績データをもとに、現行の輸送とエコ輸送のCO2排出量を比較し、コスト削減とCO2削減を組み合わせた営業提案を展開する計画です。

ソラシドエア、宮崎から首都圏へ即日配送サービス開始

ソラシドエア（宮崎市）は10月19日、宮崎市内から首都圏への小口貨物輸送「ソラチョコ便」を開始すると発表しました。法人と個人事業主向けは10月27日、個人向けは11月1日にスタートする予定です。宮崎産の農産物や魚介類を首都圏各地へ航空便とトラックなどを活用して即日配送するもの。ソラシドエアは、高速輸送ビジネスを旅客輸送と

ともに収益の柱とする狙いです。ソラシドエアは、ソラチョコ便を他の路線にも展開していく計画で、航空便を活用した高速輸送のメリットを生かし、地元産品の直送ビジネスを拡大させていく計画です。今回開始する宮崎市内から首都圏へのソラチョコ便は、法人と個人事業主向けについては指定した拠点間で荷物を輸送するもの。メールで問い合わせで配送契約を結ぶ必要があります。個人向けサービスは、宮崎市内で集荷し、東京都の17区と、横浜市の9区、川崎市の4区に配送。配送エリアは順次広げていく考えです。当日の集荷配送は朝9時までの申し込みが必要となります。宮崎空港発12時45分で東京国際（羽田）空港着14時20分の航空便を活用する予定です。重量サイズ上限は荷物1個あたり20キログラム、3辺合計で160センチ。ソラシドエアのホームページ上の「受注フォーム」（10月28日開設予定）で申し込み手続きを行います。運賃は5キログラムまでが1万円、10キログラムまでが1万2000円、20キログラムまでは1万5000円。

日本アクセス、食品ロス施策が消費者庁より表彰

日本アクセス（東京都品川区）は10月18日、消費者庁の食品ロス削減推進大賞で「内閣府特命担当大臣（消費者及び食品安全）賞」に選定されたと発表しました。全社を挙げた多方面での食品ロス削減活動が評価されたもの。受発注改善やフードバンク寄贈など既存の対策から、AI（人工知能）を活用した需要予測導入やインターネットチャネルとの連携など新規性のある対策まで、多様な活動を推進したことで、大幅な食品ロス削減を達成しました。2030年までに食品廃棄物排出量を16年度比50%削減との目標を設定。「ロスを出さない」「売り切る」「配る」「リサイクル」の4つのフェーズに分けて情報を整理する独自のコミュニケーションツールを開発して、社員研修や外部発信などに活用した点も評価されました。さらに、自社だけに留まらず、当社の販路を活用したメーカー側や、小売業者との協業や物流インフラを活用した店舗側、商品開発を通じた消費者側のロス削減につながる取り組みも展開することで、サプライチェーン全体に波及する活動に拡大させたことも選定の根拠となった、とされています。

お知らせ

- ・ 国際物流総合研究所ではオンラインセミナーを開催しております。物流企業幹部向けに “生産性を向上させるには～課題意識の持たせ方とは？”～ 現場における管理者の意識改革を行うことで生産性を向上させる～のテーマで弊社代表の岩崎が11月4日（木）時間16時～17時（60分）まで講演を行います。参加費用は一人5,000円（税抜）。セミナー申込み国際物流総合研究所事務局TEL03-3667-1571 <https://a15.hm-f.jp/cc.php?t=M295572&c=115155&d=7fb3>
- ・ H I プランニングでは、各種課題に最適なソリューションを提供させていただきます。環境改善にも役立つ話題の車載機器各種（矢崎エナジーシステム社製など）を高性能と多くの実績で各界からの評判も高い製品を御紹介致します。
- ・ ドライバーから見えない死角を雨天や夜間でも鮮明な画像を通じて安全運転をサポートする、日本ヴェーテックの「リアビューモニター」。ドライブレコーダーや通信機器とのシステム連携、多カメラ化など車載機器を中心に幅広く展開しています。また、駐車場やオフィスなどのセキュリティカメラもリーズナブルな価格でご提供。サービス内容も高い評価を得ています。H I P紹介によりサービス価格でのご提供も可能です。
- ・ エイチ・アイ・プランニングでは、このたびオンラインでの研修を開始しました。お客様ニーズに合わせた最適な研修をPCかスマホがあればZOOMを活用し、指定時間にどんな場所でも参加することが可能です。新しい時代の研修として、すでに多くの企業で導入済みです。実際の講演とオンラインの組み合わせも可能です。（トライアル可能）
- ・ 来年5月12日（木）～14日（土）パシフィコ横浜でジャパントラックショー2022が開催されます。このトラックショーを盛り上げるためトラック事業者のサポーター登録を募集中です。サポーター登録後は、サポーターズフォーラム特別価格で参加、オンラインセミナーに月1回無料参加等、特典多数。別添申込書にてお申し込み下さい。